



別府港 UDターミナル提言書

Beppu harbor
UD terminal proposal note



2021(令和3)年7月

別府港UDターミナル推進協議会



公益財団法人

交通エコロジー・モビリティ財団

はじめに

私たちは、2020年パラリンピック東京大会（2021年開催）を契機とした「心のバリアフリー」と「ユニバーサルデザインの街づくり」に取り組む「共生社会ホストタウン」の拡大など地域における共生社会実現に向けた機運の醸成をパラリンピック後もレガシーとして継続する必要があります。また、「共生社会ホストタウン」の取組をレガシーにする観点から地域における先駆的なハード・ソフト両面のバリアフリー化を推進し、共生社会実現に向けて取り組むことが重要です。

そこで、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団（以下、エコモ財団）では、これまで指摘されていたが、十分に対応ができていなかった港湾・空港施設におけるリムジンバスのバリアフリー化、旅客船・小型航空機等の乗船時・搭乗時のバリアフリー化及び避難所となる学校のバリアフリー化に対して、日本財団の支援による「共生社会実現に向けた移動円滑化基金」（通称：バリアフリー基金）を活用して支援を行い、共生社会実現に寄与することを計画しています。

本提言書は、上記の内容のうち、旅客船の乗船時におけるバリアフリー化の推進について、2022年10月に完成予定の「別府港フェリーターミナル」の建設に対し、実施主体の株式会社フェリーさんふらわあ、別府市内の障害当事者団体のNPO法人自立支援センターおおいた、別府・大分バリアフリースタアセンターと協働し、計画の段階から障害当事者の参画を行い、旅客船ターミナル等における高齢者、障害者等の移動円滑化についてとりまとめたものです。旅客船ターミナルのバリアフリー化については、出発地側の施設だけでなく、乗船する旅客船や到着地側の施設も含め移動全体で捉え、総合的に取り組む必要があります。また、継続的に移動全体のバリアフリー評価に取り組むことが望ましいと考えています。

本提言書の作成にあたっては、地域の障害当事者団体のNPO法人自立支援センターおおいた、別府大分バリアフリースタアセンター、行政から国土交通省九州運輸局、大分県、別府市のご担当者にご参画いただき、実施できたことに感謝申し上げます。また、コロナ禍において様々な不自由さを抱える中、ヒアリング調査に協力いただいた障害当事者、家族の皆様と丁寧にスケジュールを調整し、提言書をまとめ上げていただいたジーエー・タップのスタッフにこの場をかりて改めて感謝申し上げます。そして、この主旨に賛同し、施設の計画段階よりユニバーサルデザインのターミナル実現を目指した株式会社フェリーさんふらわあに敬意を表するとともにご発展を祈念いたします。

別府港 UD ターミナル推進協議会

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

理事兼バリアフリー推進部長 吉田哲朗

目次

ページ

00	はじめに
01	構成員名簿
02	1 本提言の目的
03	2 別府港の概要
07	3 障害者ヒアリング
07	ヒアリングテーマの設定
09	ヒアリング結果まとめ
21	4 別府港UDターミナル実現に向けた提言
51	5 今後の取り組み
53	あとがき

構成員名簿

別府港 UD ターミナル推進協議会の構成員名簿を以下に示す（敬称略・順不同）。

氏名	所属	役職
後藤 秀和	NPO法人自立支援センターおおいた	理事長
若杉 竜也	別府・大分バリアフリースターセンター	代表
吉村 勝浩	株式会社フェリーさんふらわあ	常務取締役
渡邊 恒徳	株式会社フェリーさんふらわあ 経営企画部	部長
兵頭 賢昭	株式会社フェリーさんふらわあ 経営企画部	課長
吉田 哲朗	公益団法人交通エコロジー・モビリティ財団	理事兼 バリアフリー推進部長
澤田 大輔	公益公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 バリアフリー推進部整備支援課	課長
高橋 徹	公益公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 バリアフリー推進部整備支援課	調査役
オブザーバー		
淵上 亨	九州運輸局 交通政策部 消費者行政・情報課	課長補佐
	2021年3月31日迄	
永松 大佐	九州運輸局 交通政策部 バリアフリー推進課	主査
梶原 琢也	大分県 福祉保健部 障害者社会参加推進室 地域生活支援・芸術文化スポーツ推進班	室長補佐
	2021年3月31日迄	
関 隆晴	大分県 福祉保健部 障害者社会参加推進室 地域生活支援・芸術文化スポーツ推進班	主幹（総括）
大久保 智	別府市 市民福祉部 障害福祉課	課長補佐
	2021年3月31日迄	
大野 積善	別府市 市民福祉部 障害福祉課	課長補佐
協力会社		
東川 大	株式会社ジーエー・タップ	ディレクター
亀井 翔太	株式会社ジーエー・タップ	ディレクター/デザイナー
高木 顕	株式会社ジーエー・タップ	プランナー/デザイナー

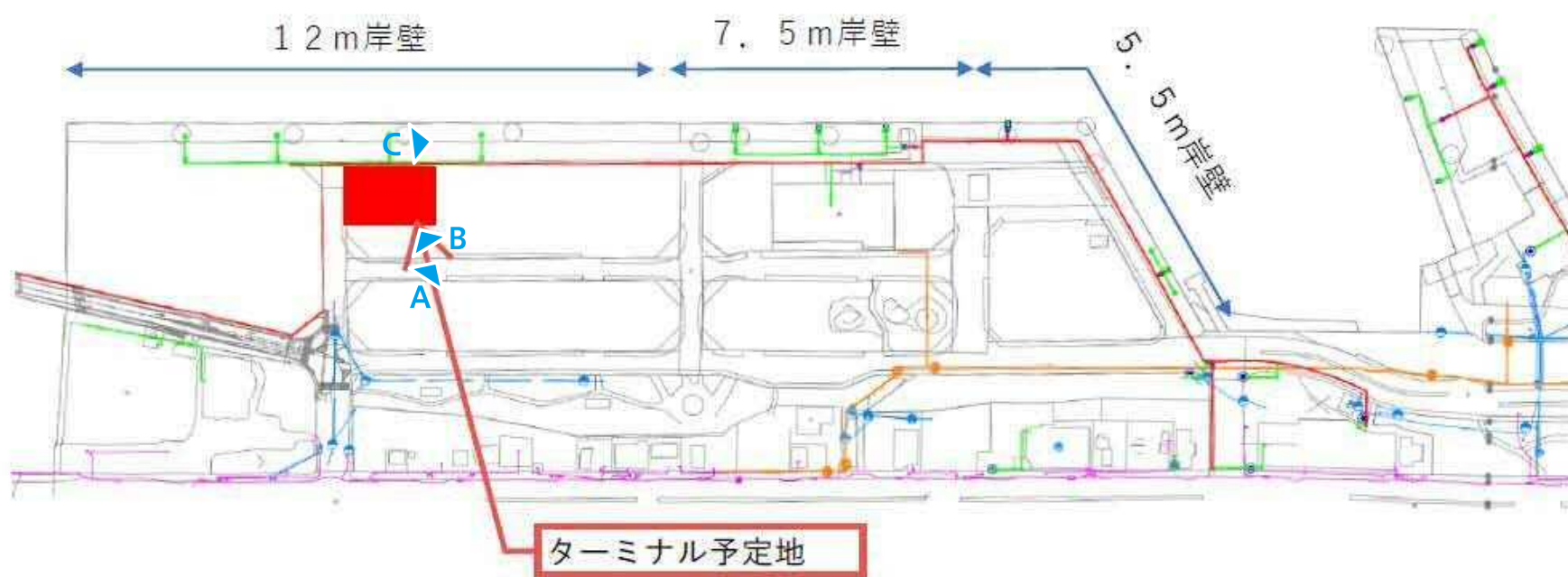
旅客船ターミナルの設計にあたっては、国や自治体が提示している『公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン』（『バリアフリー整備ガイドライン』）、『大分県福祉のまちづくり条例 施設整備マニュアル』等の標準的な内容を満たすことに加え、乳幼児連れが必要とする授乳室、機能分散や性別を限定しないトイレ、目に見えない障害や宗教により必要となるカームダウン・クールダウンスペースや祈祷室など新たな内容も視野に入れて検討を行う必要がある。

当協議会においては、計画初期の段階から様々な障害特性のある当事者等が参画し、そこで得られた意見等を検討・吟味した上でバリアフリー化の配慮事項等に盛り込んだ。本提言書は、高齢者や障害者等の移動の円滑化を推進するための提言として、施設設計に資することを目的とする。

2 別府港の概要

① 別府港ターミナルの現状（建設予定地）

< 現況調査記録より >



A：既存乗船車駐車場入口から南側を望む

